

第17回 イタリア15世紀宮廷舞踊コースについて

—イタリア・ウンブリア州 アッシシ市 旧美術館 2014年7月5日—6日—

小野 千枝子

今年の教材は『バッサ・ダンツァ』カテゴリーから「グローリア Gloria」と「ラ・クルデーレ La crudele」、そして『バッロ』カテゴリーから「マルケサーナ Marchesana」「ラ・フィリア・グリエルミーナ La figlia guglielmina」「フランコ・クオーレ・ジェンティーレ Franco cuore gentile」を選択した。

古典舞踊研究の進展とともに、15世紀イタリア舞踊は約100曲が再現可能となり、その中、約半数は頻繁に踊られているが、他は古文書館や図書館に埋もれたままである。この講習会の主目的は、それらを掘り起こし、再現し、音楽を探索し、それに合わせて踊りを試す事である。それは単なる好笑的な営為に留まらない。原典の比較・照合、精緻な解釈という個的・知的理解を経て、更に深く舞踊の真意を理解するために、参加者達や指導者達と共に複数の人々が協力しながら舞踊を実践することが必須の要件となる。というのは、15世紀宮廷舞踊は本来的に複数の高貴な人々によって踊られたものであり、そこには高い美的価値と倫理的価値が重視されたからである。従って舞踊の望ましい再現とは、個人的な形式的理解を超えて集団的な行為の中で実現される精神性の探求とその体現である。この舞踊の人間の意義の一端を伝えることを願い、アッシシで舞踊コースを開始して以来、約20年間、手探りで活動を続けてきた。

今年のコースについて、第一に受講者の能力の水準が高く、職業的舞踊家や研究者、高学歴の受講者に恵まれたこと、第二に全員でフォリーニョ市のヌンツィアテッラ御堂(Oratorio della Nunziatella, Foligno)を訪ね、ペルジーノ作品に描かれた聖人等のポーズを学んだことを特記したい。宮廷舞踊の要諦は「形と心」の一体であるが、今年はこれを伝え、共に体現できた例年以上に充実したコースであった。